

活動日誌

- ㉔ 2月 1日 津島しらうお&産業まつり
地元消防団との懇話会
- ㉕ 2月 2日 毛利修三事務所開き
自民党勉強会
国土調査地図閲覧
- 2月 3日 自由民主党議員会政務調査視察研修
仙台市研修
- 2月 4日 自由民主党議員会研修 仙台市内視察(震災地)
- ㉖ 2月 5日 自由民主党議員会研修 東京研修
- 2月 8日 愛媛マラソン 参加
- 2月 9日 和霊講
- 2月10日 宇和島市議会自民党議員会
- ① 2月11日 建国記念の日奉祝宇和島大会
トキワバイカツツジ保存会
- 2月13日 人権をまもる町民の集い
- 2月14日 環太平洋大学 第15回スピーチコンテスト
- 2月15日 宇和海駅伝
- ② 番城 人権・ふれあいフェスタ
- 2月18日 宇和島おもてなしクラブ懇談会
- 2月19日 宇和島青年会議所シニアクラブ例会
- 2月20日 3月定例会 議案説明会
- 2月21日 ダブルダッチ指導者講習会
四万十川流域観光物産展
- 2月22日 トライアスロン協会四国ブロック会
宇和島市消防出初め式
- ③ 吉田陸上会
- 2月23日 自民党議員会 要望に対する市長の回答について
代表質問について
- 2月26日 厚生委員会勉強会/市立宇和島病院について
- 2月27日 愛媛産業振興財団懇談
自民党議員会月例勉強会 行政改革大綱について
山本議員講
- 3月 1日 地元消防団との懇話会
- ④ 耳の日の集い
- 3月 2日 市議会本会議
全員議員協議会 都市再生整備事業(駅周辺整備)の
経過報告について
厚生委員会(傍聴)
教育環境委員会(傍聴)
宇和島東高30期同級会
- 3月 3日 産業建設委員会(傍聴)
総務委員会
宇和島商工会議所工業部会役員会
- 3月 4日 市議会本会議
- 3月 5日 日本会議宇和島支部役員会・反省会
- ㉗ 3月 6日 宇和島東高定時制卒業式
- 3月 7日 愛光学園父母の会総会
環太平洋大学短期大学部卒業式
- 3月 8日 愛媛県クラブ対抗駅伝
和霊町西通り1区自治会総会
- ⑤ 3月 9日 再生可能エネルギーと省エネについて勉強会
和霊講
- 3月11日 市議会本会議 代表質問
- 3月12日 市議会本会議 一般質問
- 3月13日 市議会本会議 一般質問(登壇)
- 3月15日 宇和島道路開通記念イベント
宇和島食の祭典
- ⑥ 3月16日 宇和島経営者協会 金融経済特別セミナー
毛利修三総決起大会
- 3月17日 城南中学校卒業式
- 3月18日 教育環境委員会(傍聴)
厚生委員会(傍聴)
- 3月19日 総務委員会
産業建設委員会(傍聴)
- 3月20日 宇和島法人会理事会
- ㉘ 3月21日 宇和島道路全線開通式
- 3月22日 中畑保一氏総決起大会
吉田陸上会
- 3月23日 市議会本会議
全員議員協議会 人事案件について
市会議員と市理事者の懇談会
- 3月24日 鶴島小学校卒業式
宇和島伊達Spirits
- 3月25日 うわじま牛鬼まつり実行委員会
- 3月26日 宇和島市観光協会理事会
商工会議所通常議員総会
- 3月27日 自民党議員会月例勉強会 行政改革大綱について
子育て支援制度の概要について
山本議員講
- 3月28日 プレジデント皇神 理事会
- ㉙ 3月29日 伊達入府400年祭オープニング 大武者行列
伊達なお城下 楽市・楽座にぎわい市
- 4月 1日 地元消防団との懇話会
- 4月 2日 環太平洋大学短期大学部 入学式-
商工会議所工業部会役員会
宇和島東高30期同級会
中畑保一県議必勝祈願祭
毛利修三県議出陣式
- ⑧ 4月 4日 まつの桃源郷マラソン
- 4月 8日 鶴島小学校入学式
- 4月 9日 城南中学校入学式
- ㉚ ㉙ 宇和島東高定時制入学式・定時制教育振興会総会・
私費会計等運営協議会
- 4月11日 愛媛県トライアスロン協会 総会
- ㉛ 4月12日 トキワバイカツツジプロジェクト打合せ
栄町港自治会総会
市議会総務委員会
- 4月13日 うわじま牛鬼まつり花火部会
おかん講
- 4月19日 ブラッドオレンジフェア
あま〜びれ創立20周年記念パーティー
- 4月22日 宇和島法人会理事会
吉田陸上会
- ㉜ ㉛ 4月24日 カレドニアンスカイ入港 歓送迎
和霊神社 春季大祭
自民党議員会月例勉強会 中期財政計画について
山本議員講
- ㉝ ㉜ 4月25日 ロストラル入港
- 4月26日 ふる里だんだん祭り
- 4月28日 美しい日本の憲法を作る愛媛県民の会
- ㉞ 4月29日 全日本大学選抜相撲
春のつしま商工まつり



① 建国記念の日 ② 人権まつり ③ 消防出初め式 ④ 耳の日の集い ⑤ 環境勉強会 ⑥ 経済研究会 ⑦ 宇和島道路開通式
⑧ 松野桃源郷マラソン ⑨ 宇和島東高定時制入学式 ⑩ トキワバイカツツジ ⑪ 宇和島さんさ ⑫ 折鶴プロジェクト ⑬ 外国船出迎え ⑭ 大学相撲

活動報告

【改革加速】「株式会社 宇和島市役所」への意識改革について

市長は3月議会の施政方針の最後に、株式会社宇和島市役所という言葉を使って、意識改革の必要性を述べました。これこそが私が掲げている「市役所が今すぐにでも出来ること、お金が無くてでも出来ること」なのです。働く者、つまり市役所の職員の意識改革であります。

株式会社化というと、何か利益を追求して、その利益のために何でもするというふうには聞こえてしまいますけれども、市民というのは投資家(税金の形で資金を出してくれている人)でもあるし、逃げないお客さん・逃げられないお客さんであると言えます。宇和島市が嫌だから、よそへ住むよということとはなかなか出来ないわけで、行政サービスというのは、チラシを見て買い物の行き先を変えるように購入先を選ばないのです。では、どうしなければならないか。提供する側が、意識改革を進めてより安いコストでよりよいサービスを準備することに常に取り組むことなのです。

そして、株式会社化の肝は、永続可能性だと思います。「人口がどんどん減っていつてしまいますよ」とか、「この自治体がなくなってしまうよ」ということにならないように、どう永続させていくか。これは営利という言葉で捉えると悪く聞こえますけれども、経営という観点から、いつまでも選ばれるまち(住み続けて頂けるまち)宇和島として、永続可能性という感覚でも市長は「株式会社化」を使ったのではないかと捉えています。

例えば、松下幸之助翁は、電気メーカーである会社を公器であると言いました。「公器」まさに市役所がそうです。公なんです。

その公共サービスが「永続可能」で、いつまでも市民にサービスを提供できる企業(市役所)になるにはどうしたらいいかという問題提起がこの「株式会社化」だと思っています。私も、市政を担う一員として、常に一歩先のよりよいサービスを提供出来るまち宇和島であるよう渾身の力をこめてまいりたいと思います。

【積極的投資で将来費用を削減しよう】プール整備の事業化を進めています

宇和島市議会では、25年9月に宇和島水泳協会からの「市営の公認屋内プール新設の請願書」を採択しています。そして、この2・3月末で、市内の民間のスポーツクラブ経営が閉じられたことにより発生したスイミングクラブ難民対策等、関係部署に要望を伝え、本会議の質問でも3月と6月の2度プール整備を求めてきました。

若年人口の激減など地域の現状を考えると、プールを整備してもその利用者の使用料収入だけで管理経費を稼ぐのは難しいと思います。民間のノウハウを取り込むなどして、いかに赤字(税金での補てん)を少なくするか、かなりの工夫が必要でしょう。

また、公共投資には費用対効果の評価は事業化判断にとっても重要なファクターであります。その上、行政というのは自分たちがやりたいことの便益は積み上げるけれども、気の進まないことについては便益を過小に評価することがあります。プールが、運動習慣の施設として、リハビリの施設として、子どもたちの健全育成の施設として、とても大きな効果があることは想像に難くありませんが、単に運動施設としての利用料収入だけではなく、将来の介護費用や医療費を削減する効果など、利用度を上げることで幅広く大きな便益を積み上げて分子を大きくする努力が必要です。やる気でどんどんと効果(便益=利用の幅)を積んでみてはどうかと提案しています。

投資(整備の費用、管理運営の費用)のあり方についても提案しています。施設整備も民間のノウハウや資金を利用することで廉価で行える(法的にも現実的にも)時代です。資金調達や施設整備から民間活力を活用したPFI(※1)を導入したり、公設民営(改修・更新や維持管理・運営を民間で行う指定管理など)も含め効率的経営を端から考察することが必要ではないでしょうか。また、行政として民間経営に積極的に関わっていくことも必要だと思います。民間に任せっきりにせず、健全な経営を維持してもらうために営業に力を貸していく(※2)ことを条件として、民間に事業化(参入)を検討してもらってはどうかとも思います。

また、既存施設の一部利用(例えば、宇和島地区広域事務組合の長堀のクリーンセンター施設跡(※3)も選択肢の一つとして、検討を進めていければと思います。

以上のように、便益を積み費用を削減して、プール新設の投資効果を計ることで、早期の整備実現を要望しています。

※1) PFIについて、詳しくは内閣府 民間資金等活用事業推進室(PFI推進室)のhttp://www8.cao.go.jp/pfi/tebiki/kiso/kiso01_01.htmlをご覧ください。
 ※2) 健診でリスクが高い(血圧が高い等々)結果が出た方に施設利用券を配ったり、高齢の方や妊婦の方に体験チケットを提供するなどして、運動習慣を付けるきっかけとして、ボランティア活動で得られるポイント制や地域通貨の制度の使い道として、施設を採用するなど利用拡大に協力するプランでもって、民間の参入を促すのも一案だと思います。
 ※3) 2015年8月に施設使用は停止し、2015・16年度の2カ年で6億6000万円ほど予算を組み附属設備を含めた解体(債務負担行為を含み)するとしています。施設の基礎がしっかりしており、大量な水の入った水槽(プール)を乗せても耐えられる構造で、プールをより安く整備することが出来るのではないかと考えられます。